Ｃｈａ－１グランプリ本戦会クイズ解答

番号	■問題	■答え	解説
1	「チャ」の分類は大きく分けて中国種とアッサム種に分けられ、アッサム種は中国種に比べ、葉の大きさが大きい。	○	
2	お茶の市場の取引に使われる大きな「そろばん」の「一の玉」の数は、５玉である。	○	
3	高林　謙三が粗揉機を完成させたのは、1899年である。	×	1896年
4	「日本茶GI」が登録されたのは、令和８年７月である。 GIマーク	○	https://www.nihon-cha.or.jp/gi.html
5	茶の栽培に適している土壌の特徴は、水はけがよく酸性の土である。	○	空気が水が通りやすく、水分や肥料を保つ力が強いもの、酸性土壌が適している
6	防霜ファンは茶葉を乾燥させ、新芽に霜が下りるのを防いでいる。	×	上空　の暖かい空気を地表へ送る役割がある
7	煎茶の製造工程は、蒸し→揉捻→粗揉→中　揉 →精　揉 →乾燥の順番である。	×	蒸し→粗揉→揉捻→中揉→精揉→乾燥の順番
8	番茶は、仕上げの工程でふるい分けされ、残った出物のことを言う。	×	番茶は、一般に新芽が伸びて硬くなった茶葉や古葉、茎などを原料として製造した茶のことをいう。
9	カテキン類の中で、特に抗酸化作用が強いとされている成分はEC（エピカテキン）である。	×	EGCgは緑茶　に多く含まれ、抗酸化・抗菌作用が最も 強いとされる代表的なカテキン。
10	家庭でお茶を保管する場合は、涼しくて暗い場所に保管するのがよい。	○	

Ｃｈａ－１グランプリ本戦会クイズ解答

番号	■問題	■答え	解説
11	冷水で淹れた煎茶は、90℃のお湯で淹れた煎茶よりも、一般にEGCG（エピガロカテキンガレード）の抽出量が少なくなる。	○	
12	風邪予防に役立つお茶の成分は鉄分である。	×	カテキンには抗菌・抗ウイルス作用がある。
13	「玉露」「煎茶」「コーヒー」、100mlあたりに含まれるカフェインの量が最も多い飲みものは「玉露」である。	○	
14	お茶の効能を利用した、靴下やタオル、シャツが製品化されていますが、これは血行促進効果を期待したものである。	×	消臭効果を利用した製品になる、
15	お茶の品種「サンルージュ」の抽出液は、レモンで青色に変化する。	×	アントシアニンは酸性で赤く、アルカリ性で青くなる。
16	「世界農業遺産」の茶草場農法の認定登録地域は、掛川市・菊川市・島田市・牧之原市・浜松市 である。	×	掛川市・菊川市・島田市・牧之原市・川根本町の５市町。
17	お茶の樹は、７月～8月にかけて雨が全く降らない方がお茶の樹の生育にとって好ましい状態である。	×	お茶の樹は、夏の干ばつで生育不良を起こしやすい作物である。
18	ほうじ茶の香ばしい香りには、ピラジン類などの成分が関係している。	○	
19	静岡県内では、お茶の手摘み体験や茶工場見学など自然とお茶に触れ合う取組が進められている。このような、お茶をテーマにした旅のスタイルは、「ティーツーリズム」とも呼ばれる。	○	
20	中国では、多種多様なお茶が製造されていますが、基本的には、緑茶・黄茶・白茶・青茶・紅茶・黒茶の6つに分類される。このうち、ウーロン茶は黄茶に分類される。	×	ウーロン茶は青茶に分類される。
21	静岡県で「茶」という文字が書かれている粟ヶ岳という山がある場所は、掛川市である。	○	

Ｃｈａ－１グランプリ本戦会クイズ解答

番号	■問題	■答え	解説
22	現在、静岡県に残っている手揉み茶の流派の数は８流派である。	○	
23	日本のお茶の収穫時期は、その年の最初に摘み取られる一番茶の後、二番茶、三番茶、秋冬番茶など、収穫時期によって区別されている。	○	
24	令和7年に抹茶の原料である「碾茶」を日本で最も多く生産した都道府県は京都府である。	×	鹿児島県
25	静岡鉄道が作った遊園地のPRソングである、「ちゃっきり節」は１０番まで存在する。	×	３０番まで存在する。
26	摘み取った生葉を紅茶にする場合、一番最初に行う工程は、「萎凋」といって、生葉の水分を減らす工程である。	○	
27	チャの病気の一つで、葉に白く膨らんだ病斑ができ、雨などによって感染が広がることがある病気は、「もち病」である。	○	
28	茶園の新芽の部分を黒い資材などで覆いを行い、太陽の光を遮ると、アミノ酸類とビタミンCが増える。	×	アミノ酸類は増えるが、ビタミンCは減る
29	花粉やハウスダストなどによる目や鼻の不快感を軽減することが報告されている『べにふうき』は、紅茶に加工すると、メチル化カテキンが減少・消失する。	○	
30	お茶の品種「山の息吹」は、香料を混ぜずに桜葉の香りがある品種である。	×	桜葉の香りがするのは、「静７１３２」